

(5)

氏名(生年月日)	片 山 文 彦 カタ ヤマ フミ ヒコ
本 籍	
学位の種類	医学博士
学位授与番号	甲第62号
学位授与の日付	昭和46年3月30日
学位授与の要件	学位規則第5条第1項該当(医学研究科衛生学専攻, 博士課程修了者)
学位論文題目	東京女子医科大学病院の診療圏
論文審査委員	(主査)教授 石井 妙子 (副査)教授 三神 美和, 教授 松村 義寛

論文内容の要旨

I. 緒論

診療圏とは病院, または診療所という医療サービスのひとつの供給地点を中心とする, 利用者の空間的分布状態をさす。診療圏調査は病院経営管理方法および病院建築の基礎的資料になり, 商品生産産業における市場調査の一部に当たると同時に, 地域社会の医療総合計画の資料となる。

今回, 東京女子医科大学病院の, ある一日の外来・入院の全患者について調査を行ない, 病院建築の参考資料の一助とするため, また, 大病院濃厚地域である新宿区の特異性を吟味し, 一連の地区保健活動の資料とするための糸口とした。

II. 成績

まず患者構成をみると, 外来患者 1,656名, 入院患者 1,058名であり, 重複患者延数 368名, 13.6%であった。外来では女性患者(特に20~30才台)が多く, 入院では男性患者(60才台は女性の倍以上)が多かった。新来, 再来の比は3:17であった。看護度は高度(濃厚), 中等度, 軽度がほぼ三分し, 入院期間は1カ月半以上の患者が3割を数えた。各診療科総計のうち, 外来では心研, 消化器病センター, 三神内科で31.4%, 入院では前二科と精神科で53.1%を占めた。疾患別では消化器系の疾患, 循環器系の疾患, 新生物の計で外来患者の38.3%, 入院患者の50.4%を数えた。また, 国保, 健保本人, 健保家族で9割以上を占め, 入院の場合健保本人の増加がみられた。紹介患者の割合は, 外来で53.4%, 入院で77.3%を示し, 職業分類では, 入院が外来に比べ自由業専門職の割合が高くなっていた。

次に, 行政区画別に1km圏, その他の新宿区, 新宿区を除いた都区内, 都下, 関東, その他の6分類として, 診療圏の大小をはかった。その結果, 外来ではそれぞれ15.2, 8.0, 43.7, 9.8, 20.3, 3.0%を, 入院では6.1, 6.4, 42.1, 9.9, 26.1, 9.4%を占めた。

全患者の50%を含む円の半径は, 概算で外来10km, 入院13kmに及び, 非常に大きな診療圏をみた。各科では心研が最も広く, 精神科, 消化器病センター, 精神科を除く本院の順に狭くなっていたが, 近隣との接触の強いはずの本院も, 他の病院と比べれば広い診療圏であった。本院のなかでも特殊疾患を扱う科が広がっていた。まさに東京都という行政区域だけで医療のための地域を考えることができなくなってきたことがはつきりした。

外来患者についてみると, 母子を中心とした紹介なしの軽い患者は近くから, 中老年の男性で紹介された重症患者は遠くから来る傾向のあることが判った。前者は診療所の利用が予想され, 後者は紹介者を介して高度な診療を期待している患者で入院につながる率の高い患者である。

入院患者については, 心研などの特殊科が大きい割合を占めるグループが広い範囲から患者を集めた。すなわち健保家族, 重症, 紹介患者, 年齢別では0才台が広い診療圏を持った。

III. 結語

当病院の診療圏は広く, 外来患者は二つのグループに大別される。一つは, 診療的に利用するものであり, 今一つは, 高度の診療を求めて通勤圏と一致するような

遠くから来るグループである。すでに救急医療を通して、地域との密着の重要性についてはいささか問題にされてきたが、一般地域医療・総合保健の立場から前者のグループに対し、また遠隔の地から来院する後者のグループに属する患者に対し、総合病院、教育病院としての

病院管理上の系統的措置がとられたことはなかつた。こうした両面の性格を併せ持つ大学病院の特殊性にかんがみ、患者の立場を考慮に入れた医療サービスの態勢をととのえることは、教育病院としての機能の向上をも果すこととなろう。

論文審査の要旨

本論文は、医療サービスの供給地点たる病院を利用する外来、入院患者の構成、その居住地点の分布状態を分析することによつて、医療需給の法則を明らかにし、地域保健計画をふくめた病院管理学上、多大の価値を有するものと認める。

主論文公表誌

東京女子医科大学病院の診療圏。

東京女子医科大学雑誌 第41巻 第3号 202
～ 220頁 (昭和45年3月25日発行)

副論文公表誌

1. 東京女子医科大学病院における病院統計—1966～

1967年—

東女医大誌 38(9) 40～44 (昭和43年)

2. 東京女子医科大学病院における health manpower
東女医大誌 40(1・2) 114～125 (昭和45年)